

日本株を見直そう（その5）

～世の中を変革する成長企業～

最終回は世の中に変革をもたらすことで力強く利益を伸ばしている成長企業を紹介します。

事例① 「情報革命で変革」、ソフトバンクG

ソフトバンク・グループは、インターネットを基盤とし、国内外の通信事業や端末ソフトウェア設計、流通事業などを手がける複合企業です。「情報革命で人々を幸せに」という経営理念のもと、米Yahoo!、アリババ、ボーダフォン、Sprint、ARMなどへの出資を通じ、世の中に変革をもたらし、過去10年間で営業利益を3.8倍に伸ばしました。株価はITバブル時は独り歩きしていましたが、足元では業績を伴ったしつかりした動きになってきています。

事例② 「医療業界を変革」、エムスリー

エムスリーは、インターネット技術を駆使し、医療業界の情報流通に変革をもたらしている企業です。医師による医療に関する情報収集と、製薬企業側からの情報提供をインターネットで巧みに結び付け、日本最大級の医療従事者専用サイト「MR君」を実現しました。医師と製薬企業を結びつけることでは国内では圧倒的な存在感があり、足元では海外展開を進めています。また、治験（医薬品製造・販売のための事前の臨床試験）の支援サービス等、新たな医療分野へ事業拡大を続けています。営業利益は過去10年間で9.3倍に成長しました。

事例③ 「M&Aで変革」、日本M&Aセンター

日本M&Aセンターは、中堅・中小企業のM&A仲介業務に特化した企業です。全国の公認会計士・税理士の共同出資のもとで設立されました。日本の中堅・中小企業の多くが「後継者不在問題」に直面しているとされ、M&Aは後継者問題の解決策の一つとして考えられますが、まだまだ実現数が少なく、当社のような企業が活躍する余地は大きいと考えられます。経験豊富なコンサルタントを擁し、また、中堅・中小企業に特化していることも、顧客の信頼を集めているようです。営業利益は過去10年間で8.9倍に成長しました。

シリーズ、完。

※なお、弊社が運用を行なっている主な「日本株ファンド」の組入銘柄の参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。また、過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

図1：ソフトバンクGの営業利益と株価の推移

期間：（利益）1994年度～2018年度、年度
（株価）1994年7月末～2017年5月末、月次

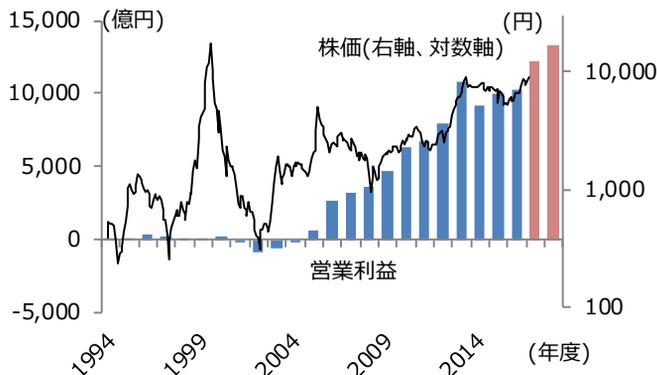


図2：エムスリーの営業利益と株価の推移

期間：（利益）2003年度～2018年度、年度
（株価）2004年9月末～2017年5月末、月次

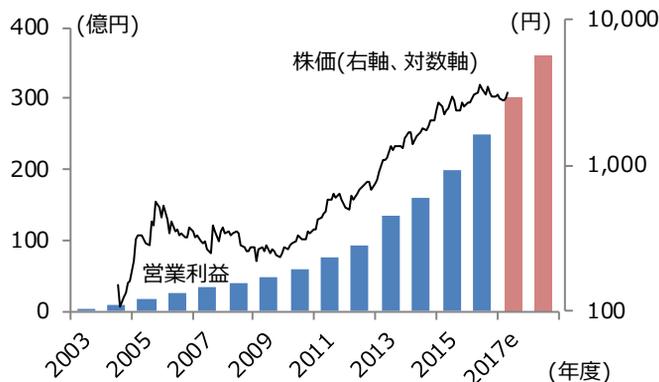


図3：日本M&Aセンターの営業利益と株価の推移

期間：（利益）2004年度～2018年度、年度
（株価）2006年10月末～2017年5月末、月次



注）各社の2017、18年度予想（赤色）はブルームバーグ予想出所）Bloombergデータを基に野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。